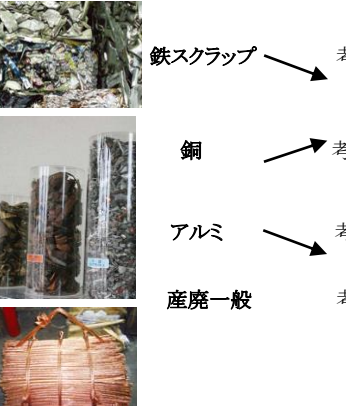


*5月(皐月) 待望のゴールデンウィークが始まります。毎年この日を楽しみに国内、海外へ観光旅行の人波が出来ますが、今年は世界中がコロナとの戦いのため、ステイホームの週間となりました。例年、旅行等の外出予定のない方々は、ゆっくり近所の散歩とか、日ごろ溜めていた録画ビデオを堪能して英気を養おう!と思ったかも知れませんが、感染予防の規制で、「出ては駄目よ!」と言われると、逆に困りを超えて外に出たくなるのが人情でしょう。日本より規制が厳しい海外では自由を求めて暴動が起きているというニュースに胸が痛くなります。公園の遊具も使えない、太平洋を目の前にしてもサーフィンも出来ない。辛いですね。遊びだけではありません。経済の保証もなく先が闇という企業も出てきています。「何もできない」忍の一字が続くGWとなりました。でも、辛いこを国を挙げてワンチームとなり、歯を食いばって頑張ったら、トンネルの先に見える光は保証されているのです。4月初め、街のあちこちには今年も忘れずにツバメが舞い始めました。嬉しい訪問です。「ちゆるちゆるり つばめ戻りぬ コロナの街に」。笑顔のあふれる夏休み、お盆となるよう痩せ我慢でも上を向いて頑張りましょう。その時スクラップ業界はきっと大忙しになるでしょう。
*東港金属グループは非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。身近なりサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。

☆羅針盤 No.122

発行: 東港金属グループ
編集: 東港金属株式会社
東京都大田区京浜島2-20-4
電話 03-3790-1751
URL <https://www.tokometal.co.jp/>
(見学受付)
電話03-3790-1751 又は 各営業担当



☆羅針盤 鉄・非鉄スクラップ・市況からの5月予測

営業部 Y の考察

鉄スクラップ 考察) 4月は指標となる東京製鉄宇都宮工場の特級価格19,000円/トンでスタートし、最終は18,500円/トンとなり500円/トン下がりました。4~6月の粗鋼生産量が前年同期比で25.9%減、関東鉄源の輸出価格の低下を見ても5月の上げは期待できません。発生減でもあります。

銅 考察) 4月はLME4,870ドル/トン、国内銅建値570,000円/トンでスタート、最終的にはLME5,170ドル/トン、国内銅建値590,000円/トンと上げました。5月に関しては、新型コロナウイルスに対する欧米諸国の対応の緩和情報からみても多少上がると思われます。

アルミ 考察) 4月はLME1,520ドル/トンでスタート、最終的には1,500ドル/トンと多少下がりました。5月に関しては自動車メーカーの工場停止及び2次合金メーカーの受入状況からみても下がると思われます。

産廃一般 考察) 新型コロナウイルスの影響で全国的に中間処分場・最終処分場共に搬入量が激減しています。4月だけで通常の3割くらい下がっているようです。5月に関しては、工事の延期・店舗やイベントの再開状況により一層厳しくなると思われます。この時期新規の取引に応じる処分場が多いと思います。

4月予測の自己評価: 鉄スクラップ ○ 銅 × アルミ ○ プラスチック -

☆羅針盤

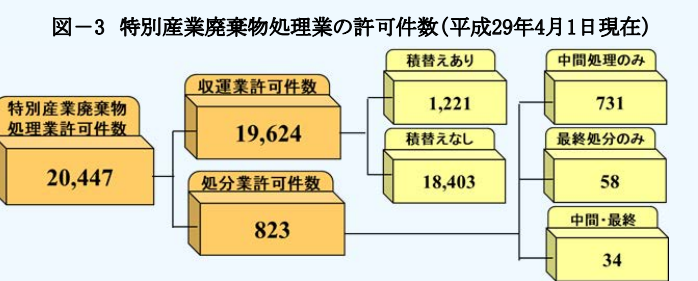
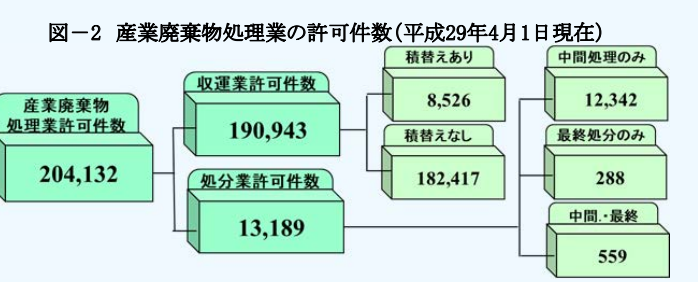
データで見る産業廃棄物の排出と処理等の状況

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響で隔月掲載のコラムを延期しました。代わって環境省の発表資料を参考に、産業廃棄物の排出と処理の状況、及び産業廃棄物処理業の許可等に関する状況をお伝えすることと致しました。

特別管理を含む産業廃棄物処理業の許可件数の推移を図-1に示します。許可件数が平成22年から23年に大幅に減少したのは、廃棄物処理法の改正により、許可が合理化されたことによります。



また、平成29年4月1日現在の産業廃棄物業と特別産業廃棄物業の許可件数の内訳を図-2と図-3で示します。(複数の許可を持つ業者についても項目ごとに積算しております)



産廃排出量の推移を図-4で示します。排出量は近年やや減少傾向ですが、年間3億8千万トン前後で大きな変化はありません。



最終処分場の残存容量と残存年数の推移を図-5に示します。残存容量は、新規登録もあり横ばいになっておりますが残存年数は右肩上がりの状況です。これは、排出時の選別と中間処理施設での再資源化等が進み図-6で示すように、最終処分量が大幅に減少しているため、今後もこの傾向が進むものと思われま。

